



Middle Years Programme
Programme d'éducation intermédiaire
Programa de los Años Intermedios

中等教育プログラム

「言語と文学」指導の手引き

2014年9月／2015年1月から適用



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional



Middle Years Programme
Programme d'éducation intermédiaire
Programa de los Años Intermedios

中等教育プログラム

「言語と文学」指導の手引き

2014年9月／2015年1月から適用



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

中等教育プログラム

「言語と文学」指導の手引き

2014年5月発行、2014年9月改、2017年9月改定の英文原本 *Language and literature guide* の日本語版
2016年1月発行、2018年4月改定

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注：本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。ただし、ディプロマプログラムの概要を説明している「ディプロマプログラムとは」のセクションに限り、日本語版刊行時現在の新たな情報が反映されています。アップデートされた用語がある場合には、ワークショップなどでは最新の用語にそれぞれ読み替えてご利用ください。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト：www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2016

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくはwww.ibo.org/copyrightをご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール：sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、
International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

はじめに	1
本ガイドの目的	1
MYPプロジェクト	3
プログラムモデル	3
MYPにおける「言語と文学」	5
「言語と文学」の本質	5
IBの一貫教育の中の「言語と文学」	7
ねらい	8
目標	9
学習の進行の計画	12
学際的な学習	15
MYPプロジェクト	17
指導計画と授業方法	18
要件	18
「言語と文学」のカリキュラム計画	20
探究による「指導」と「学習」	23
科目別のガイダンス	30
評価計画	32
目標の整合性と評価規準	32
評価規準の概要	33
「言語と文学」の評価規準：第1年次	34
「言語と文学」の評価規準：第3年次	39
「言語と文学」の評価規準：第5年次	45
e アセスメント	51
付録	52
付録	52
「言語と文学」用語解説	55

「言語と文学」のための指示用語	61
推薦図書	63

本ガイドの目的

本ガイドは、学校年度の開始時期に合わせて、2014年9月または2015年1月からの運用となります。

本ガイドは、中等教育プログラム（MYP）で実施される「言語と文学」における「指導」と「学習」の枠組みを提供します。必ずIB資料『MYP：原則から実践へ』（2014年5月刊行）も併せて読み、活用してください。IB資料『MYP：原則から実践へ』には次の内容が含まれています。

- ・プログラムの概要
- ・MYPの単元指導案（すべての教科に関連するカリキュラムを開発するためのガイド付き）
- ・「学習のアプローチ」（*approaches to learning*）の詳細
- ・生徒のアクセスと「インクルーシブ」な教育（学習支援の必要な生徒のための宿泊設備を含む）をサポートするためのアドバイス
- ・学問的誠実性についての方針

MYPの資料では、要件はこのように枠で囲んで表示されます。

その他のリソース

教師用参考資料（TSM: teacher support material）が、プログラム・リソース・センター（PRC）に用意されています（<http://resources.ibo.org>）。「言語と文学」のTSMは、指導計画、授業方法、評価計画の開発に役立つ内容を含み、教科の概観、評価課題、マークスキーム（採点基準）、さらに教師によるコメント付きの生徒の成果物を含む、優れた実践例を紹介しています。

外部評価のプロセスを選択すると、IBにおける「言語と文学」の**MYPでの成績**を得ることができ、これらの成績によって、IBの**MYP修了証**の取得が可能になります。詳細は、IBから毎年刊行されるIB資料（英語版）『*Middle Years Programme assessment procedures*（MYPにおける評価の手順）』に記載されています。

また、MYPを支援するさまざまな資料をIBストア（<http://store.ibo.org>）で購入できます。

謝辞

I Bと共に中等教育プログラム（MYP）の発展に取り組む、I Bワールドスクール（I B認定校）と世界中の教育者コミュニティーの多大なる貢献に、深く感謝いたします。

プログラムモデル

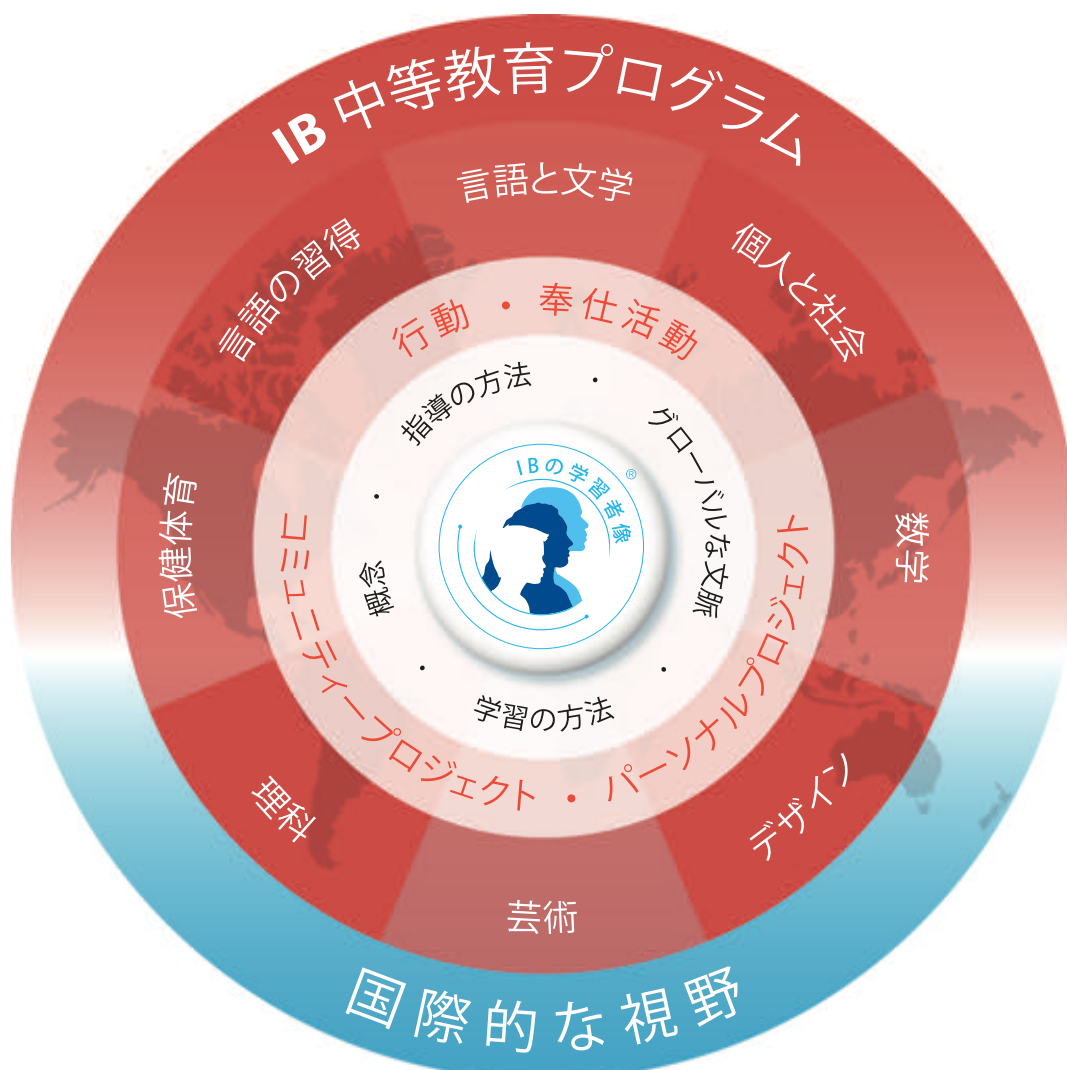


図1

中等教育プログラム（MYP）のモデル

MYPは11歳から16歳までの生徒を対象としたプログラムで、生徒が創造的、批判的、^{クリティカル}内省的思考を身につけることを促す学習の枠組みを提供します。MYPでは知的な課題を重視し、各科目の学習内容と実際の社会を結びつけるよう生徒に働きかけます。これにより、コミュニケーションや多様な文化の理解、グローバルな関わりのためのスキル、つまりグローバルリーダーとなる若者に欠かせない要素を育成します。

MY Pには、ほとんどの国や地域で定められたカリキュラムの要求に十分に対応できる柔軟性があります。IB初等教育プログラム（PYP）で身につけた知識、スキル、姿勢を活かし、IBディプロマプログラム（DP）やIBキャリア関連プログラム（CP）の学問的課題に対応できるよう生徒を導きます。

MY Pでは、以下のような取り組みを行います。

- ・ 生徒の知的、社会的、感情的、身体的な**発達**^{ホリスティック}に、全人的に取り組む。
- ・ 生徒が複雑な問題に対応し、未来に向けた責任ある行動をとるために必要な、**知識、姿勢、スキル**を育む機会を与える。
- ・ **8つの教科**を通して、幅広く深い理解が得られることを保証する。
- ・ 生徒が自国の文化と他国の文化を理解できるよう、2つ以上の言語の学習を義務づける。
- ・ 生徒に、**コミュニティーの奉仕活動**に参加できる力を身につけさせる。
- ・ **進学や就職、生涯にわたる学習**に取り組めるよう生徒を導く。

「言語と文学」の本質

言語は、私たちが人間たらしめる。それは、自然と歴史の無意味な雑音と沈黙に対抗する、頼みの綱である。

オクタビオ・パス (Octavio Paz)

文学は、普通の人たちについて何か並はずれたものを見だし、普通の言葉で何か並はずれたことを言う技術である。

ボリス・パステルナーク (Boris Pasternak)

言語は、学習、思考、コミュニケーションの基盤です。そのため、言語はカリキュラム全体に浸透しています。実際に、すべての教師は語学教師であり、生徒が考えていることを絶えず拡大させていきます。1つ以上の言語を習得すると、それぞれの生徒は、自分の言語的な最大の可能性に到達することが可能になります。

生徒は、「言語と文学」の本質、「言語と文学」に影響を与える多くのもの、そしてその力と美について正しい理解を身につける必要があります。生徒は、言語に堪能であることが、あらゆる社会においてコミュニケーションの強力なツールになることを認識するようになるでしょう。さらに、「言語と文学」では、創造的なプロセスを取り入れて、自己表現を通じた想像と創造性の育成を促進します。

すべてのIBプログラムは、批判的思考を育成するうえで中心となる言語に重きを置いており、批判的思考は、多様な文化の理解を育むだけでなく、国際的な視野をもつ、地域、国、およびグローバルなコミュニティの責任ある一員となるために不可欠なものです。言語は、個人的発達と文化的なアイデンティティーを探究し維持するのにならぬものであり、概念の発達を支援するための知的な枠組みを提供します。MY Pの「言語と文学」の教科の6つのスキル領域——聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表すること——は、独立したスキルとして、また互いに関連したスキルとして育成されます。これらのスキルは、探究に基づく学習環境の中で中心的な位置を占めます。探究は、MY Pの言語学習の中核であり、独立して、また協働して調査し、行動し、振り返る機会を提供することで、生徒の理解を支援することを目指しています。

MY Pの「言語と文学」は、学問的に綿密に組み立てられていると同時に、他のすべての教科にわたる学際的な理解を育むために使用できる、言語スキル、分析スキル、およびコミュニケーションスキルを生徒に身につけさせます。生徒が指定のテキストと相互作用的な関係を持つことで、道徳的、社会的、経済的、政治的、文化的、環境的な要素に対する洞察

がもたらされ、これが意見形成、意志決定、および倫理的な推理能力の発達に役立つとともに、「IBの学習者像」の特質をより育みます。

これらのより広範な目標の達成を支援するため、本資料は教師と生徒の双方に向けて、MYPの「言語と文学」の明確なねらいと目標に加え、内部評価の要件に関する詳細も提供します。

IBの一貫教育の中の「言語と文学」

国際教育としてのIBの一貫教育は、3歳から19歳の児童生徒に、連続的な学習を提供します。MY Pの「言語と文学」は、IBの初等教育プログラムまたは他の初等教育で生徒が身につけた言語学習の経験を土台としています。知識、概念理解、そしてスキルは、学際的な探究の単元、または独立した言語探究を通して育成されていきます。PYPの言語の6つのスキル領域——聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表すること——は、MY Pの学年を通してさらに向上します。

MY Pの「言語と文学」コースは、生徒がPYPの間に習得したスキルを出発点とします。コースには以下が含まれます。

- ・「学習のアプローチ」(ATL)のスキル(プログラムを通じて複雑さのレベルが徐々に高くなる)
- ・言語発達に応じたMY Pの指示用語

コースは探究主導となり、指導方法と学習経験(教科の、および学際的な)は、生徒が初等教育で経験したような単元を踏まえて構築されることとなります。

続けてDPを学ぶ生徒は、DPコースの選択項目(特に「言語と文学」ですが、「コア」や他の教科においても)の学習を可能にする、少なくとも1言語の基礎を身につけることとなります。また、生徒は「言語と文学」の学習に対する、探究的で、考察に基づくアプローチも身につけます。MY Pの2つ(以上)の言語に熟達した生徒は、DPのバイリンガルなディプロマ資格にふさわしいと言えるかもしれません。

図2は、DPの「言語と文学」の学習に向けた、IBの一貫教育の道筋を示しています。

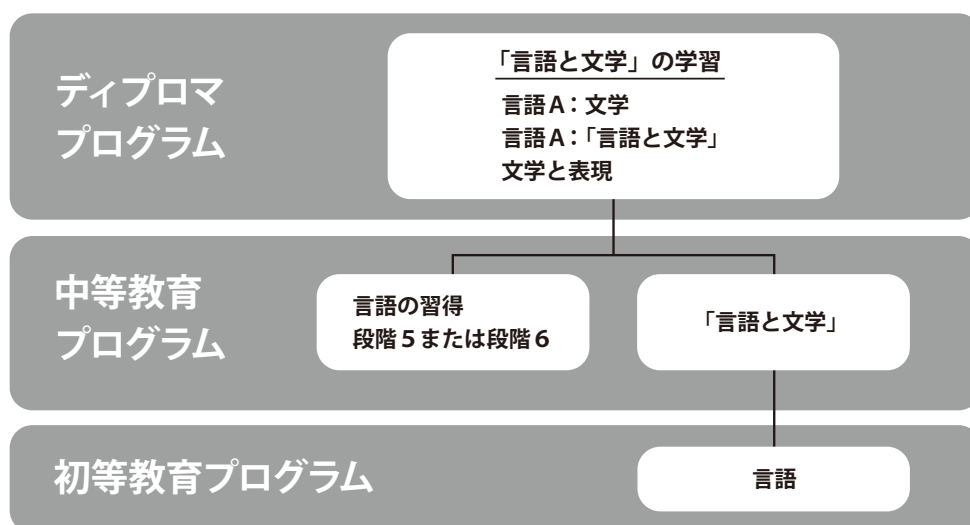


図2

「言語と文学」における、ディプロマプログラム学習に至るIBの一貫教育の道筋

ねらい

すべてのMY P科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。

MY Pの「言語と文学」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- ・ 言語を、思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・ さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・ 文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・ 歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・ 文学および非文学のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・ 多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・ 生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・ 実際のさまざまな文脈の中で、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標

どのMYP教科の目標の記述においても、科目での学習について特定の目標が設定されています。これらの目標では、科目の学習の結果として、生徒が達成できることを定義します。

MYPの「言語と文学」の目標は、知識についての事実および概念に基づく側面、手続き上の側面、そしてメタ認知的な側面を網羅しています。

これらの目標は、言語の本質的なプロセスのいくつかに対応するものです。「プロセスは、新しい知識と理解の構築の媒介となるものであり、言語とコミュニケーションにおいて特に重要な役割を果たす」(Lanning 2013: 19)。

こういった目標を満たすために、教師は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することという、言語のそれぞれのマクロスキルに集中する必要があります。これらの言語の伝達様式(モード)は、非常に相互作用的で相互に関連するものですが、場合によっては、教師は個別の学習経験と別々のテキストで対応してもかまいません。

学校は、第1、第3、第5年次のプログラムについては、この指導の手引きに記載されている目標を使用**しなければなりません**。

各目標はいくつかの**ストランド**から構成されています。ストランドとは、学習することの1つの側面または指標です。

教科では、MYPの**各年次**で**少なくとも2回**、4つの**すべての**目標の、ストランド**すべて**に取り組ま**なければなりません**。

これらの目標は、この指導の手引きの「評価計画」の項に記載された評価規準に直接関連しています。

A 分析

「言語と文学」の学習を通して、生徒は、テキストの本質的な要素とそれが意味するものを特定するために、テキストを分析することが可能になります。分析では、作者の選択、テキストのさまざまな構成要素間およびテキスト間の関係を理解し、そして、受け手のテキストへの反応(ストランド i)、創作に対する作者の目的(ストランド ii)について推論

します。生徒は、自分の個人的な反応とアイデア（ストランド iii）に役立てるために、テキストを利用できなければなりません。リテラシーと批判的リテラシーは、生涯にわたって不可欠なスキルです。生徒がテキストに取り組むには、批判的な思考、テキストの解釈を通じた異なるものの見方（ストランド iv）への認識とそれを熟考する能力が必要になります。

「言語と文学」のねらいを達成するために、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
- ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を分析する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
- iv. ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。

B 構成

生徒は、コミュニケーションの多様な形式と目的に合わせた、さまざまな適切な表現技法を用いることで、自分の考えと意見を理解し、整理することができなければなりません。また生徒は、知的所有権を尊重しすべての情報源を正確に参照することによって、学問的誠実性を維持する重要性を認識する必要があります。

「言語と文学」のねらいを達成するために、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
- ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した発表の体裁を作成する。

C 創作

生徒は、創造的プロセスそれ自体と、作者とその受け手の間のつながりの理解に焦点を合わせて、書面によるテキストと口頭によるテキストを創作します。新しく、変化するものの見方と考えについて探究し認識する中で、生徒は、作者と受け手の双方に影響するテキストを創作することを目指した選択を行う能力を身につけていきます。

「言語と文学」のねらいを達成するために、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 創造プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し、批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。

- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に対する影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを育むために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

D 言語の使用

生徒には、考えやアイデア、情報を発展させ、構成し、自己表現し、伝える機会があります。生徒に求められることは、文脈と意図に適した、正確で多様な言語を使用することです。この目標は、必要に応じて、書面のテキスト、口頭のテキスト、そして視覚テキストに適用し、またこれらを含まなければなりません。

「言語と文学」のねらいを達成するために、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 文脈と意図に適した言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

学習の進行の計画

言語学習は繰り返しのプロセスであり、文脈の幅を次第に広げ、読みを深めて探究をすることで育まれます。MYPの「言語と文学」の学習が進むにしたがって、生徒は、より広い**範囲**そして高い**難易度**の、さまざまな**ジャンル**、**文化**、**時代**にわたる**文学や情報のテキスト**および**文学作品**を探究することが期待されます。これらのテキストはまた、広がっていく**社会的、文化的、学問的な文脈**の中で、そして**さまざまな受け手や目的**に対して、生徒が、**適切かつ効果的**にコミュニケーションをとる能力を身につけるためのモデルも提供します。

プログラムを通じて、生徒はカリキュラムに取り組み、徐々に理解の難易度を向上させていく必要があります。

第1年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第3年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第5年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある
目標A：分析		
<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの重要な側面を特定し、それについて意見を述べる。 ii. 作者の選択を読みとり、それについて意見を述べる。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を説明する。 iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点と相違点を見いだす。 	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。 ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。 iv. ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。 ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を分析する。 iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。 iv. ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。

第1年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第3年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第5年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある
目標B：構成		
<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。 ii. 意見や考えを論理的方法で整理する。 iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。 ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的方法で整理する。 iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。 ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的方法で整理する。 iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
目標C：創作		
<ul style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究しながら、思考や想像を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。 iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。 iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。 ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。 iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

第1年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第3年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある	第5年次 「言語と文学」のねらいの達成に、生徒は以下のことを習得している必要がある
目標D：言語の使用		
<ul style="list-style-type: none"> i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。 ii. 文脈と意図に適した言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。 iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。 iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。 v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

学際的な学習

学際的な「指導」と「学習」は、個々の教科と学習分野に基づいていますが、以下のよう
な方法によって教科の理解が広がります。

- ・ **統合的な方法**—— 2つ以上の教科、学習分野、または確立された専門分野の概念、方法、またはコミュニケーションの方法を統合し、新しいものの見方を構築する。
- ・ **目的のある方法**—— 学習分野を関連づけ、実社会の問題を解決したり、成果を生み出したり、1つのアプローチでは思いもよらない方法で複雑な問題に取り組む。

学際的な「指導」と「学習」は、MYPの生徒の発達上のニーズに対応する、関連性の高いカリキュラムを構築します。また、生徒に、さらなる学問的な教科ごとの学習および学際的な学習、そして相互の関連性がますます高まる世界での生活に向けた準備をさせます。

MYPは、概念と文脈を、教科と学習分野を横断する知識の、意味のある統合と転移(transfer)の出発点として使用します。IB資料(英語版)『*Fostering interdisciplinary teaching and learning in the MYP* (MYPにおける学際的な「指導」と「学習」の促進)』(2014年刊行)には、学際的単元を計画し記録するための詳細なプロセスを含む、詳しい情報が記載されています。

MYP実施校は、プログラムの各年次で、協働して計画された少なくとも1つの学際的単元に生徒を取り組ませる責任があります。

MYPの「言語と文学」は、学際的な「指導」と「学習」の機会を数多く提供します。この教科の学際的単元には、例えば以下のような探求があります。

- ・ 文学作品や芸術作品における創造性。例えば、芸術家たちが創造する方法について探究する。特に、ジョン・キーツの「イザベラ (Isabella)」における象徴的意味と詩的表現の使用や、芸術家ウィリアム・ホルマン・ハントとジョン・エヴァレット・ミレー (美術) における形式とスタイルの選択など。
- ・ 文学的概念 (デザイン) を伝えるのに使用できる双方向的なマルチメディア製品
- ・ 青年期に見られる否定的な身体イメージの問題。例えば、意識向上キャンペーンに向けた小冊子や告知広告 (保健体育) のデザインなど。
- ・ 社会的紛争に対する文学的解釈。例えば、第二次世界大戦を扱った作品など (個人と社会)。

学際的な学習は、大小さまざまな規模の学習への取り組みを通して行うことができます。実際の学際的な学習では、しばしば批判的な振り返りと詳細な協働計画を必要とします。

しかし、教師と生徒はまた、自然発生的な学習経験や対話から、学際的なつながりを見つけることもできます。

MY Pのすべての教科担当教師は、学際的な「指導」と「学習」に向けて、意味のある継続的な機会をつくり出す責任があります。

MY Pプロジェクト

MY Pコミュニティープロジェクト（第3または第4年次の生徒向け）とMY P「パーソナルプロジェクト」（第5年次の生徒向け）は、新しい洞察とより深い理解を生み出すグローバルな文脈の中で、持続的な探究を奨励し、これを実現することを目指しています。このような最終的な経験において、生徒は、信念のある生涯学習者としての自信を育みます。また、自分の学習について考察する能力を向上させ、効果的にコミュニケーションを行い、自らの達成に誇りをもちます。

「言語と文学」コースは、生徒が、「MY Pプロジェクト」における成功と楽しみをもたらす、主要な「学習のアプローチ」（ATL）を身につけるうえで役立ちます。「言語と文学」では、生徒はATLスキル、特に思考スキルを実践する重要な機会があります。問題や考えを分析・評価できること、考えを複数の観点から考察できることは、「言語と文学」の学習における本質的な側面です。

「言語と文学」は、行動を通じた学習の機会を数多く提供します。「言語と文学」は、目標としての「コミュニティープロジェクト」と「パーソナルプロジェクト」にインスピレーションを与えることができます。

- ・ 生徒の自国、学校所在国、または生徒の母語もしくは学習言語の国の地域社会における社会改革や改善に向けてアドボカシー（権利擁護や提言）を行う。
- ・ 個人、地域、またはグローバルに重要な問題についての意識向上キャンペーンを計画し、そのキャンペーンを複数の言語で実施して人々に伝える。
- ・ 学校コミュニティーおよび一般市民の受け手に向けて、チャリティーイベントもしくは文化行事、またはその両方として、パフォーマンス、討論、詩の朗読などのイベントを企画し、参加する。
- ・ 個人、地域、またはグローバルに重要なテーマを表現した、ショートストーリー、詩集、または戯曲を書く。

要件

授業時間

学校は、MYPの「言語と文学」の要件を満たすのに必要な授業時間を割り当てなければなりません。

MYPは、プログラムの各年次について、各教科で少なくとも50時間の授業時間が必要です。

実際には、教科のねらいと目標を満たして学際的な学習を実現する、持続的で同時並行的な教育を提供するには、通常これよりも多くの時間が必要になります。

IBの中等教育プログラム修了証の取得につながるIBのMYPでの成績を達成しようとする生徒が対象である場合は、「言語と文学」コースは、プログラムの最後の2年次(MYPの第4年次と第5年次)で授業時間がそれぞれ少なくとも70時間必要です。

MYPの「言語と文学」で期待される最終的な目標と基準を考慮すると、1学年あたりの最小時間数よりも多くの時間を当てるのが推奨されますが、これは、学校の所在地、生徒のバックグラウンド、そして学習する言語が学校の指導言語かどうかによって異なる場合があります(学習する言語が指導言語でない場合、学校は、より多くの時間を割り当てることを検討する必要があるかもしれません)。学校は、「言語と文学」の最終的な目標を満たす機会を提供できるよう、生徒に十分な時間と**継続的な**指導を与えられるようにする必要があります。

学校における「言語と文学」の構成

MYPの「言語と文学」の最高レベルの目標を満たす機会を生徒に与えられるよう、教師は、以下の内容を含む、バランスのとれたカリキュラムを計画する必要があります。

- ・ 教師自身の情報源を利用した、生徒の特定のニーズや関心に適合する、やりがいのある課題
- ・ 多様な文化、歴史的な時代や歴史に残る場所の学習を通して、生徒の経験や視点を広げるとともに、多様な文化への理解を促す、さまざまな課題

MYPの「言語と文学」の各コースには、**言語と文学**のバランスについての学習を組み込む**必要があります**。

文脈上の言語学習、言語の習得、および文学はすべて、「言語と文学」のカリキュラムを構築する上で重要な役割を果たし、探究に基づく学習への自然な入り口を提供します。

MY Pの「言語と文学」の各コースには、**ジャンルのバランス**についての学習を組み込む**必要があります**。

教師は、生徒がさまざまな異なるテキストのタイプ（例えば、短編小説および長編のフィクション、抜粋および作品全体、詩、戯曲、ノンフィクション、視覚テキストなど）を学習する機会を確保しなければなりません。生徒が5年間で各ジャンル固有のスキルを十分に発達させられるよう、プログラムの各年次の間に複数のジャンルに取り組むことが推奨されます。

MY Pの「言語と文学」の各コースには、さまざまな**文学**の学習を組み込む**必要があります**。

文学の定義は文化や言語によって異なります。ほとんどの文化においては、文学とは詩、散文（短編小説および小説）、神話、戯曲などをいいますが、文化によっては、自叙伝、伝記、劇画（グラフィックノベル）、紀行文学、風刺、エッセイ、書簡、文芸ノンフィクション、スピーチ、伝説、映画脚本、フィルム、テレビドラマも文学に含まれることがあります。学校は、「言語と文学」コースの文脈の中で、何を文学とするかを判断する必要があります。

MY Pの「言語と文学」の各年次の各コースには、**世界文学**の要素を組み込む**必要があります**。

MY Pにおいて、世界文学とは、それぞれが多様な文化を明確に示す、世界各地の文学や翻訳作品のことをいいます。

ほとんどの場合、生徒は、プログラム全体にわたって「言語と文学」と同じ言語を学習します。場合によっては、さまざまな理由から、言語習得教科において、ある言語を第二言語または付加言語として学習し始め、その言語の運用能力が十分身に着いた後、MY Pの後の年次の「言語と文学」でその言語を学習することもあります。このようなケースでは、2つの言語グループの教師が密接に協働して、スムーズな移行を促すことが不可欠になります。

各学校の状況によって、対応可能な言語、そして「言語と文学」の教科の構成が決まります。

学校の指導言語と、「言語と文学」コースで学習する言語が、付加言語である生徒がいる場合、学校は、言語の習得を支援するための効果的な方法を提供しなければなりません。この詳細については、IB資料『母語以外の言語によるIBプログラム学習』（2008年4月刊行）を参照してください。

「言語と文学」のカリキュラム計画

IBワールドスクール（IB認定校）は、プログラムのねらいと目標を達成するための機会を生徒に提供できるよう、MYPの「言語と文学」コースを開発・構築する責任があります。地域と国のカリキュラム要件を含む各学校の状況により、学校における「言語と文学」の構成を決定します。

MYPの『基準と実践要綱』では、学校が、カリキュラムの開発とレビューに向けた協働計画を促進・推奨することを義務づけています。

カリキュラムの第1～第5年次の「言語と文学」の目標には連続性があり、学習の進行の概要を示します。これらの目標は、形成的評価と総括的評価を含む、発達上適切な学習経験について判断するうえで教師の指針となります。

教師は、プログラムの各年次にわたる「言語と文学」の学年縦断的な結びつきを展開するにあたり、徐々に複数の目標を網羅する複雑な単元へと進むよう計画を立てる必要があります。しかし、こういった単元において、個別の課題や小さい単元は、特定の目標や個々のストランドに集中する可能性があります。

「言語と文学」コースは、通常、カリキュラム全体にわたって学際的なつながりを構築するための機会を数多く提供します。プログラムにおける各年次の教科横断的な結びつきによって、「言語と文学」コース全体の「指導」と「学習」が調整されるとともに、共通の概念理解、そして学年を通して一貫性のある学習経験を生み出す、複数の教科にわたる「学習のアプローチ」（ATL）が明らかになるでしょう。

「言語と文学」コースの目標を達成するためのスキルの育成

MYPの「言語と文学」の学習を通じて、生徒は、自分自身と他者の言語の使用において、言葉の力に対する認識の深まりを示すでしょう。また、さまざまな意図と文脈に適した言語を使用し、これを解釈できるようになるはずです。

生徒は、「言語と文学」のスキルを実践し、習得し、示すために、なじみ深いテキストと、これまでに見たことのないテキストの両方を学習するべきです。また、さまざまな時期、場所、文化、地理的地域、歴史的な時代、そしてものの見方を背景とするテキストに取り組むべきです。

口頭のコミュニケーション

口頭のコミュニケーションは、言語の習得、学習、他者との関わりにとって不可欠のスキルであり、**聞くことと話すこと**のあらゆる側面が含まれます。口頭のコミュニケーショ

ンによって、生徒は、さまざまな方法で思考を口頭で述べるプロセスを通じ、意味を構築できるようになります。討論、ロールプレイ、議論、ソクラテス式（問答法）セミナー、口頭エッセイ、講演、スピーチ、インタビュー、シミュレーション、詩の朗読、そして劇や口頭による文学の解釈などはすべて、聞き手および話し手としての口頭のコミュニケーションスキルを習得するために、生徒が取り組むことができる学習経験の例です。口頭のコミュニケーションの課題には、主要な話し手が1人だけのものもあれば、複数の話し手が相互にやり取りするものもあるでしょう。

文書によるコミュニケーション

文書によるコミュニケーションには、**読むことと書くこと**のあらゆる側面が含まれます。読むことは、推論や解釈を行うことによって、テキストから意味を構築することです。読みのプロセスは相互作用的であり、読むことに対する読み手の目的、読み手の既得知識や経験、さらに作者の技法や効果に関わっています。

私たちは、書くことで思考やアイデア、情報を探究し、整理し、伝えることができます。生徒は、読み手および書き手の両方として文書によるコミュニケーションスキルを習得するために、さまざまなジャンル（例えば、小説、短編小説、伝記、自叙伝、日記、書簡、パステイッシュ、パロディー、漫画、劇画、詩、歌詞、戯曲、映画脚本、広告、ブログ、Eメール、ウェブサイト、嘆願、小冊子、リーフレット、社説、インタビュー、雑誌の記事、宣言、報告、指示、ガイドラインなど）のフィクションおよびノンフィクションのあらゆるタイプのテキストに取り組むことができます。

視覚的なコミュニケーション

視覚的なコミュニケーションには、**見ることと発表すること**のあらゆる側面が含まれます。見ることと発表することは、さまざまな状況で、またさまざまな目的と受け手に向けて、視覚作品やマルチメディアを解釈または構築するということです。視覚テキストは情報を伝えます。この情報を解釈する方法の学習と、さまざまなメディアについて理解し、これを利用する能力は、貴重なスキルです。視覚テキストに取り組むことで、生徒は、イメージと言語が、いかに相互に作用しあって、アイデア、価値観、信念を伝えているかを理解することができます。生徒が視聴者およびプレゼンターとして、視覚的なコミュニケーションスキルを習得するために取り組むことができる視覚テキストには、広告、美術作品、パフォーマンスアート、演出法、はがき、劇画、アニメーション、漫画、コミック、フィルム、ミュージックビデオ、ビデオクリップ、新聞や雑誌、グラフ、表、ダイヤグラム、リーフレット、ポスター、テレビ番組などがあります。

上記の例は絶対的なものではないこと、また教師はこれ以外のテキストのタイプを授業実践に組み入れてもよいことに留意してください。

教師はまた、生徒が、**異なる要件とさまざまな条件**で課題を完成させるスキルを習得できるようにする必要があります。例えば、学校は次のような課題を設定することができます。

- ・ 指導あり、または指導なしの条件の下で行う課題

- ・ 手書きの課題、または電子機器を用いてタイピングする課題
- ・ 時間制限のある課題、または時間制限のない課題
- ・ 規則や手順に従う課題、または規則や手順がない課題
- ・ プロセス（ブレインストーミング、整理、原稿作成、書き直し、編集、および出版）の一部としての課題、または即興で完成させる課題
- ・ 口頭、文書、または視覚による課題

I B 資料（英語版）『*MYP: From principles into practice*（MYP：原則から実践へ）』（2014年刊行）は、目標の使用、評価規準、および単元の計画を含む、指導計画、授業方法、評価計画の体系化に関する詳細な情報を提供していることに留意してください。

探究による「指導」と「学習」

最も広い意味での探究とは、より深いレベルの理解へ至るために使うプロセスのことです。

探究には、推測、調査、質問、関連づけが含まれます。すべてのIBプログラムでは、探究によって好奇心が生まれ、批判的で創造的な思考が促されます。

MY Pは、**グローバルな文脈**において**概念理解**を促すことによって、「言語と文学」の持続的な探究を構築します。教師と生徒は、科目を探究するために**探究テーマ**を開発し、**探究の問い**を利用します。生徒はこの探究を通して、教科の、そして学際的な**「学習のアプローチ」**の特定のスキルを習得します。

概念理解

概念とは「重要な観念 (big idea)」です。これは永続性を持つ原則または観念で、その重要性は特定の起源、対象、または時間を超越するものです。概念は、個人、地域、グローバルに意義のある問題や考えを探索する手段を生徒に提示し、「言語と文学」の本質を探究する方法を提供します。

概念は、事実とトピックを整理し関連づけるなかで、生徒と教師がより複雑に考える必要がある知識の構造において、重要な役割を果たします。

概念は、生徒が生涯にわたる学習という冒険に携えていく理解を表します。概念はまた、原則、一般化、理論を発展させるうえで生徒の助けとなります。生徒は、概念理解を利用して問題を解決し、問題を分析し、自分自身、コミュニティ、そしてより広い世界に影響を与え得る意思決定についての判断を行います。

MY Pにおいて概念理解は、所定の「重要概念」と「関連概念」で構成されます。教師は、カリキュラムを開発するにあたり、これらの概念を用いる必要があります。学校は、地域の条件とカリキュラム要件を満たすために、その他の概念を特定して構築することができます。

「重要概念」

「重要概念」は、幅広いカリキュラムの開発を促すものです。この概念は、教科や科目ごとに、またそれらを横断して関連する「重要な観念 (big idea)」を提示します。「重要概念」の探究により、以下の学習内容を網羅するつながりを容易に見つけることができるようになります。

- ・「言語と文学」の教科内のコース（教科の学習）
- ・その他の教科（学際的な学習）

表1は、MYPで探究する「重要概念」を表にしたものです。「言語と文学」の学習によってもたらされる「重要概念」は、**コミュニケーション、つながり、創造性、ものの見方**です。

美的感性	変化	コミュニケーション	共同体
つながり	創造性	文化	発展
形式	グローバルな関わり	アイデンティティ	論理
ものの見方	関係性	体系	時間、場所、空間

表1
MYPの「重要概念」

これらの「重要概念」は、「言語と文学」の枠組みを提供するとともに、単元で学習する内容を提示し、「指導」と「学習」の構築に役立ちます。

コミュニケーション

コミュニケーションとは、合図、事実、アイデア、およびシンボルの交換または転移（transfer）です。それには、送り手、メッセージ、そして対象となる受け手が必要となります。コミュニケーションは、情報または意味を伝える活動を伴います。効果的なコミュニケーションは、共通の「言語」（書記言語、音声言語、または非音声的言語のいずれか）を必要とします。

テキストを探究することで、私たちは、情報、事実、考え、意味、意見を交換し、表現し、分析し、そして変換します。コミュニケーションは、私たちを人間たらしめるものの基盤であり、世界中のコミュニティの橋渡しをするものです。コミュニケーションはこの教科の本質です。

つながり

つながりとは、人々、物、組織、または考えの間にある、関連性、結びつき、関係です。

言語的、文学的なつながりは、時間、テキスト、文化をこえて存在しています。この概念は、「言語と文学」の学習の中核を成すものです。「言語と文学」は普遍的な性質をもつため、つながりと転移（transfer）は、物語の中に、そして複数の物語にわたって存在します。これにより、言語、そしてテキスト・作者・受け手の間にある関係を探求することができるのです。

創造性

創造性とは、目新しい考えを生み出したり、既存のアイデアを新しいものの見方から考察するプロセスです。創造性には、問題への創造的な対応を考えるうえで、アイデアの価

値を認識する能力が含まれます。創造性は、成果や成果物、解決策だけでなく、プロセスにおいてもはっきりと表れることがあります。

MYPの「言語と文学」において創造性とは、創造性的手段である言語にアイデアを統合するプロセスです。これはまた、自己またはより広いコミュニティとの相互作用と振り返りの結果でもあります。このプロセスを定義や評価することは困難です。しかしこれは、個人が取り組むプロセスへの理解と、最終的な成果が受け手へ与える影響で確認することができます。

ものの見方

ものの見方とは、私たちが状況、物、事実、考え、および意見を観察するときの立場です。ものの見方は、個人、グループ、文化、または学問領域と関連性をもつ場合があります。さまざまな異なるものの見方によって、しばしば複数の表現や解釈がもたらされます。

ものの見方はテキストに影響を与え、テキストはものの見方に影響を与えます。「言語と文学」の学習を通して、複数のものの見方とその影響が特定・分析・脱構築・再構築されます。この概念を理解することは、単純化されすぎた、偏った解釈を見分け、これに対応する生徒の能力を育成するうえで不可欠です。多様な意見や視点を求め、検討することは、複合的で妥当な解釈を育むための重要な要素となります。

「言語と文学」では、**アイデンティティー、文化、形式、時間、場所、空間**といった他の「重要概念」も重要となる場合があります。

「関連概念」

「関連概念」は、掘り下げた学習を促します。この概念は特定の学習分野に基づいており、「重要概念」をより詳細に探究するうえで役に立つものです。「関連概念」を探究することで、生徒は、より複雑で高度な概念理解を育めるようになります。「関連概念」は、単元のテーマまたは科目のクラフト（craft、科目の特徴とプロセス）から生じることがあります。

表2は、「言語と文学」の学習向けの「関連概念」を表にしたものです。教師は、単元を計画する際に、この表に記載された「関連概念」のみに制限せず、他の教科のものを含め、その他の概念を選ぶことができます。

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

表2

「言語と文学」における「関連概念」

「言語と文学」における「関連概念」の用語解説は、本資料の「付録」に掲載されています。

「指導」と「学習」のためのグローバルな文脈

グローバルな文脈があることで、学習は、人類が共有する人間らしさと、共に地球を守る責任に対する、個々のそして共通の探究へと導かれます。MYPの「言語と文学」は、学習の最も広い文脈として世界を利用することによって、以下のような意義ある探求が可能となります。

- ・ アイデンティティと関係性
- ・ 空間的および時間的な位置づけ
- ・ 個人的表現と文化的表現
- ・ 科学および技術の革新
- ・ グローバル化と持続可能性
- ・ 公正性と開発

教師は、「指導」と「学習」のためのグローバルな文脈を特定するか、または生徒が探究の妥当性（それが重要である理由）を調査するうえで役立つ付加的な文脈を構築する必要があります。

「言語と文学」の概念に対する探究の多くは、必然的に「個人的表現と文化的表現」および「アイデンティティと関係性」に焦点を当てるものとなります。しかし、この教科のコースでは、時間をかけて、教科のねらいと目標に関連したMYPのすべてのグローバルな文脈を探究する、複数の機会を生徒に提供すべきです。

探究テーマ

探究テーマは、概念理解をグローバルな文脈に組み込み、教室での探究と、直接的で目的のある学習の枠組みをつくるものです。表3は、MYPの「言語と文学」の単元で扱うことのできるテーマをいくつか示しています。

探究テーマ	「重要概念」「関連概念」 「グローバルな文脈」	可能なプロジェクト／学習
批評力のある読み手は、歴史的な文脈と作者のものの見方が、文学テキストと真実の概念についての読み手の解釈に影響を及ぼすことを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものの見方 ・ 文脈、視点、実証、スタイル（文体） ・ 空間的・時間的な位置づけ 	社会的紛争の文学的解釈：第二次世界大戦など

探究テーマ	「重要概念」「関連概念」 「グローバルな文脈」	可能なプロジェクト／学習
監督は、受け手が特定の反応をするよう意図して映画を製作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造性 ・ 受け手側の受容、意味、目的 ・ 個人的表現と文化的表現 	長編映画またはドキュメンタリーの研究（研究の対象となり得る映画としては、「ボウリング・フォー・コロンバイン（Bowling for Columbine）」[2002年製作]や「スーパーサイズ・ミー（Super Size Me）」[2004年製作]）などがある
歴史的な文脈は文学ジャンルを形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながり ・ 文脈、ジャンル ・ 空間的・時間的な位置づけ 	歴史小説、短編小説の単元、比較研究（例えば、シェークスピアの『ロミオとジュリエット』とバズ・ラーマンの映画版；『ペルセポリス（Persepolis）』[劇画]と『百年の孤独（One Hundred Years of Solitude）』[革命のテーマ]）
説得力のあるテキスト（特にマーケティングや政治分野のテキスト）は、私たちの振る舞いや意思決定に影響を及ぼすことを意図した言葉を用いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション ・ 偏見、目的、受け手、スタイル（文体）の選択、形式、機能 ・ 個人的表現と文化的表現 	広告の単元

表3

探究テーマの例

探究の問い

教師と生徒は、探求テーマを用いて、事実に基づいた、概念的で、論争の余地のある探究の問いを導き出します。探究の問いは「指導」と「学習」を方向づけるとともに、学習経験を整理して順序づけるうえで役立ちます。

表4では、MYPの「言語と文学」の単元で対象となり得る、探究の問いをいくつか示しています。

事実に基づく問い： 事実やトピックを思い出す	概念的な問い： 重要な観念 (big ideas) を 分析する	議論の余地がある問い： ものの見方を評価して、 理論を構築する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的な物語とは何か。また、物語とストーリーの言語的特徴は何か。 ・ 基本的なエッセイの構成要素は何か。 ・ ファンタジーが他のジャンルと異なる点は何か。 ・ 広告主は、私たちの振る舞いと意思決定に影響を及ぼすためにどのような技法を用いるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちはなぜストーリーを語るのか。 ・ ストーリーを通して何を表現できるか。 ・ 真実とは何か。人々は、どこで／なぜ／どのようにして真実の意味を探し求めるか。 ・ 受け手は、フィルムコードと表現技法によってどのように影響されるか。 ・ 見たり、聞いたり、読んだりするものによって操られないようにするにはどうしたらいいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちはなぜ創作するか。 ・ 真実はどのようにして実証されるのか。真実は存在しているのか。 ・ 映画を製作する際になされるあらゆる意思決定は、意識的に選択されたものか、それとも私たちが深読みしすぎているのか。 ・ 広告は、どういう場合に非倫理的になるか。

表4

事実に基づく問い、概念的な問い、論争の余地がある問いの例

「学習のアプローチ」

MYPのすべての単元で、生徒は「学習のアプローチ」(ATL)のスキルを習得および実践します。これらのスキルは、教科のねらいと目標を満たすために努力している生徒にとって、貴重なサポートとなります。

ATLスキルは、国際教育としてのIBの一貫教育にわたって5つのカテゴリーに分類されます。IBプログラムは、教室内および教室以外で導入、実践、統合できる、各カテゴリーの個別のスキルを特定します。

ATLスキルはMYPのすべての教科に関連するものですが、教師は、特定の教科またはコースに固有であるか、または特に関連性の高いATLスキルの指標を特定することもできます。

表5は、「言語と文学」において重要となり得る指標をいくつか示しています。

カテゴリー	スキルの指標
思考スキル	証拠や議論を評価する
社会性スキル	他者のものの見方や考えに積極的に耳を傾ける
コミュニケーションスキル	さまざまなメディアを利用して多様な受け手とコミュニケーションする
自己管理スキル	情報のファイルやメモを整理し、論理的なシステムを維持する
リサーチスキル	数多くの多様な情報源から、さまざまなものの見方を探し求める

表5

「言語と文学」に特有のスキルの指標の例

よくデザインされた学習への取り組みと評価は、生徒がATLスキルを実践・実証する豊かな機会を提供します。MYPの各単元は、「指導」と「学習」で重点を置き、またそれを通して生徒が自分の能力を実際に示すことができるATLスキルを明確に特定します。形成的評価は、個別のスキルを習得するための重要なフィードバックを提供し、また、多くのATLスキルは、生徒が教科目標の総括的評価において自分の達成度を示すのに役立ちます。

表6は、「言語と文学」における理解のパフォーマンスによって生徒が示すことのできる、特定のATLスキルをいくつか示しています。

「学習のアプローチ」
コミュニケーションスキル（コミュニケーション） ：批判的に、そして理解するために読む 思考スキル（創造的思考） ：オリジナルの作品やアイデアを創造する

表6

「言語と文学」におけるATLスキルの実証の例

科目別のガイダンス

MY Pの「言語と文学」は、プログラムの各年次で必修の、MY Pの構成要素です。

学校は、「言語と文学」コースを複数の言語で提供することを強く奨励されています。生徒が「言語と文学」コースに取り組むための言語は、以下のようなものが考えられます。

- ・ 生徒の母語、または最も熟達している言語
- ・ 学校の指導言語

学校は、学校または地域社会で使用される言語のみに自らを制限する必要はありません。学校は、標準のカリキュラムの中で生徒の母語を提供できない場合でも、認定に向けた母語の提供を利用して、生徒が自分の母語を学習できるようにすることが奨励されています。

「言語と文学」コースでは以下のことをする必要があります。

- ・ 地域社会とその文化における「言語と文学」の、多くの側面の学習に生徒を関わらせる。
- ・ 生徒の言語能力、特に聞き、話し、読み、書く能力と批判的リテラシースキルを育成する。
- ・ できるだけ良い教育経験を与え、言語能力を最大限まで伸ばすために、言語的そして学問的な課題を生徒に提供する。
- ・ 広範な文学および非文学のテキストのタイプ、文体、および技法の学習を提供する。文学および非文学のテキストの分析には、文脈、受け手、目的、および言語的・文学的表現の使用の重要性について意見を述べるが含まれる。
 - 文学のテキストには、視覚テキスト、書記テキストまたは音声テキスト、現代的テキストまたは伝統的テキストがあり、これらのテキストは美的に、想像的に、魅力的に言語を使用します。これは、読み手を楽しませ、共感を呼び起こし、文化的アイデンティティを表現し、考えや問題について熟考させることを意図しているためです。
 - 非文学のテキストには、視覚テキスト、書記テキストまたは音声テキスト、現代的テキストまたは伝統的テキストがあり、これらのテキストは緻密かつ正確な方法で言語を使用します。これは、情報を与え、処理し、アイデア、出来事、問題について報告し、説明し、分析し、議論し、説得し、意見を表明することを意図しているためです。非文学のテキストは、例えば、広告であったり、意見コラム、エッセイからの抜粋、電子テキスト（ソーシャル

ネットワーキングサイト、ブログなど)、小冊子(公開情報リーフレットなど)、伝記、日記、または他の自伝的テキストからの抜粋であったりします。

リソース

学校内でリソースを選択する際は、その学校の言語と、年齢および能力の範囲を考慮する必要があります。学校図書館には、このプロセスにおいて果たすべき重要な役割があります。最新かつ適切なリソースを教師と生徒に提供することに加えて、学校図書館は、科目固有の単元と学際的単元の学習をサポートする資料にアクセスする、また情報リテラシースキルを習得する機会を生徒に提供しなければなりません。特に「言語と文学」に関しては、世界文学、翻訳作品、その他さまざまな言語の本を提供するとともに、生徒がマルチモーダルおよびマルチメディアな方法で理解を深め、これを伝えるための、豊かな機会を提供するうえで図書館が重要な位置を占めます。適切であれば、生徒が自分の住む世界に関する知識を広げて、より広範な言語リソースを得る重要な手段として、また、スキル習得のための新しい経路として、情報通信技術(ICT)を利用すべきです。すべての教師は、生徒がデータの利用法と制約を認識するよう、電子メディアを批判的に利用することを生徒に教える責任があります。

目標の整合性と評価規準

MY Pにおける評価は、指導計画および授業方法と緊密に連携しています。MY Pの「言語と文学」の各ストランドには、この教科の評価規準に対応するストランドがあります。図3は、この整合性、そして、到達レベルが高いほど、生徒のパフォーマンスに対する要求が複雑化する様子を示しています。

規準 A：分析

最高点：8

第5年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
- ii. 作者の選択が受け手に与える効果を分析する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性について限られた分析を行う ii. 作者の選択が受け手に与える効果について限られた分析を行う iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることがほとんどない。ほとんど/全く用語を用いない iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって最小限の範囲で関連づけることにより、評価する類似点と相違点はごくわずかである
3-4	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性について十分な分析を行う ii. 作者の選択が受け手に与える効果について十分な分析を行う iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えを正当化する。いくつかの用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を適切に関連づけることで、ある程度の類似点と相違点を評価する
5-6	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、テキストのスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を上手に分析する ii. 作者の選択が受け手に与える効果を上手に分析する iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって、内容のある特徴の関連づけを行うことにより、類似点と相違点を評価する
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を鋭く分析する ii. 作者の選択が受け手に与える効果を鋭く分析する iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えを詳細に正当化する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴の広範な関連づけをすることにより、鋭い比較・対比を行う

図3

「言語と文学」の目標および規準の整合性

評価規準の概要

プログラムのすべての年次における「言語と文学」の評価は、評価規準に準拠した「絶対評価」であり、配点比率の等しい4つの評価規準に基づいています。

規準A	分析	最高点：8
規準B	構成	最高点：8
規準C	創作	最高点：8
規準D	言語の使用	最高点：8

教科では、MYPの各年次で、少なくとも2回、4つすべての評価規準のすべてのストランドを評価しなければなりません。

MYPでは、教科目標は評価規準に対応しています。各規準には、8つの到達レベル（1-8）があり、一般に、パフォーマンスが限られている（1-2）、十分である（3-4）、優れている（5-6）、きわめて優れている（7-8）ことを示す、4つのバンド（採点基準）に分かれています。各バンドには、それぞれ固有のレベルの説明があり、教師はこれを用いて生徒の進歩と達成度について「ベストフィット」の判断をします。

この指導の手引きは、MYPの「言語と文学」の第1、第3、第5年次を対象に、**求められる評価規準**を提示しています。学校は、国や地域の要件に応じて、規準を付け加えられるほか、評価の追加モデルを用いることもできます。学校は、この指導の手引きに記載されている適切な評価規準を使用して、プログラムにおける生徒の最終的な達成度を報告しなければなりません。

教師は、これらの評価規準に直接言及して、それぞれの総括的評価の課題に期待されていることを明らかにします。評価課題ごとに説明することで、生徒が知るべき、行うべきことが明確になります。これは、以下の形式で行います。

- ・ 求められる評価規準の課題ごとのバージョン
- ・ 対面、またはバーチャルなクラス討論
- ・ 詳細なタスクシートまたは課題

「言語と文学」の評価規準：第1年次

規準A：分析

最高点：8

第1年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. テクストの重要な側面を特定し、それについて意見を述べる。
- ii. 作者の選択を認識し、それについて意見を述べる。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点を見いだす。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. テクストの重要な側面について最小限の認識と意見を示す ii. 作者の選択に関して最小限の認識と意見を示す iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることがほとんどない。 用語をほとんど／全く用いない iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をほとんど特定しない
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. テクストの重要な側面に関して十分な認識と意見を示す ii. 作者の選択に関して十分な認識と意見を示す iii. 一貫性がないかもしれないが、いくつかの例や説明を用いて意見や考えの理由を述べる。いくつかの用語を用いる iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をいくつか特定する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. テクストの重要な側面に関して内容のある認識と意見を示す ii. 作者の選択に関して内容のある認識と意見を示す iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をいくつか説明する
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. テクストの重要な側面に関して鋭い認識と意見を示す ii. 作者の選択に関して鋭い認識と意見を示す iii. 広範な例や説明によって、意見や考えを詳細に正当化する。正確な用語を用いる iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴を比較・対比する

規準B：構成

最高点：8

第1年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
- ii. 意見や考えを論理的な方法で整理する。
- iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈や意図に適した体裁を作成する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 組織的構造の使用は最小限であり、また、それが常に文脈と意図に適しているわけではない ii. 意見や考えを、最低限度の論理を用いて整理する iii. 参照と形式化のツールの利用は最小限であり、また、それが必ずしも文脈や意図に適している体裁を作成しているわけではない
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈や意図に応じた組織的構造を十分に使用する ii. 意見や考えを、ある程度の論理を用いて整理する iii. 参照と形式化のツールを十分に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈や意図に適した組織的構造の使用に優れている ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを論理的な方法で整理する iii. 参照と形式化のツールの利用に優れ、文脈や意図に適した体裁を作成する
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈や意図に効果的な組織的構造を、高度な方法で使用する ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを論理的な方法で効果的に整理する iii. 参照と形式化のツールの利用にきわめて優れ、効果的な体裁を作成する

規準C：創作

最高点：8

第1年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 創造的プロセスへの個人的関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究しながら、考えや想像を表すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを育むために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの限定的な個人的関わりを示すテキストを創作する。考えや想像力は限定的で、新しいものの見方や考え方の探究は最小限にとどまる ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関するスタイル（文体）の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への認識が限定的であることを示している iii. 考えを裏づけるために選ぶ関連する詳細と例はごく少数にとどまる
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの十分な個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方をある程度探究している ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関してスタイル（文体）の選択をある程度行い、受け手に与える影響についてある程度の認識を示している iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例をいくつか選ぶ
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの内容のある個人的関わりを示すテキストを創作する。内容のある考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方について内容のある探究がなされている ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関して十分に考慮されたスタイル（文体）を選択し、受け手に与える影響への優れた認識を示している iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例を十分に選ぶ
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方について鋭い探究がなされている ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関して賢明なスタイル（文体）を選択し、受け手に与える影響への明確な認識を示している iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例を豊富に選ぶ

規準D：言語の使用

最高点：8

第1年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙および表現形式を限られた範囲で使用する ii. 文脈や意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる iv. 綴る／書く、発音する際の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を十分な範囲で使用する ii. 時々、文脈や意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に使用する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる iv. ある程度の正確さをもって綴る／書く、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で上手に使用する ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、上手に書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に使用する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない iv. かなりの程度の正確さをもって綴る／書く、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する

達成レベル	レベルの説明
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで使用する。誤用は少なく、コミュニケーションは効果的である iv. 高度な正確さをもって綴る／書く、発音する。誤用は少なく、コミュニケーションは効果的である v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する

「言語と文学」の評価規準：第3年次

規準A：分析

最高点：8

第3年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
- ii. 作者の選択が受け手に与える効果を特定し説明する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）について最小限の特定や説明をするが、テキスト間の関係性を説明しない ii. 作者の選択が受け手に与える効果について最小限の特定と説明をする iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることはほとんどない。用語をほとんど／全く用いない iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈することはほとんどない
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）に関する特定や説明を十分に行い、またテキスト間の関係をある程度説明する ii. 作者の選択が受け手に与える効果について十分な特定や説明を行う iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えの理由を述べる。いくつかの用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点をある程度解釈する

達成レベル	レベルの説明
5-6	<ul style="list-style-type: none"> i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）について内容のある特定と説明を行い、またテキスト間の関係について説明する ii. 作者の選択が受け手に与える効果について関して内容のある特定と説明を行う iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を上手に解釈する
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）について鋭い特定と説明を行い、またテキストの間の関係を十分に説明する ii. 作者の選択が受け手与える効果に関して鋭い特定と説明を行う iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えの理由を詳細に説明する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を鋭く比較・対比する

規準B：構成

最高点：8

第3年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
- ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 組織的構造の使用は最小限で、それが常に文脈と意図に適しているわけではない ii. 意見や考えを、最小限の一貫性と論理で整理する iii. 参照と形式化のツールを最小限利用し、それが必ずしも文脈と意図に適した体裁を作成しているわけではない
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に役立つ組織的構造を適切に利用する ii. 意見や考えを、ある程度の一貫性と論理で整理する iii. 参照と形式化のツールを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を上手に利用する ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で整理する iii. 参照と形式化のツールを上手に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に効果的に応じた組織的構造を、高度な方法で利用する ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で効果的に整理する iii. 参照と形式化のツールを優れた方法で利用して、効果的な体裁を作成する

規準C：創作

最高点：8

第3年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 創造的プロセスへの個人的関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの限られた個人的関わりを示すテキストを創作する。思考、想像力、感受性は限定的で、新しいものの見方やアイデアの探究および考察は最小限にとどまる ii. 言語的、文学的、視覚的な表現に関するスタイル（文体）の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への限定的な認識を示す iii. アイデアを発展させるために、関連するごくわずかな詳細情報と実例を選び出す
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの十分な個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへのある程度の探究および考察を示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響への十分な認識を示すスタイル（文体）をある程度選択する iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をある程度選び出す
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへのかなりの個人的関わりを示すテキストを創作する。多くの思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの内容のある探究および考察を示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響への十分な認識を示す考え抜いたスタイル（文体）を選択する iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を十分に選び出す
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの鋭い探究および考察を示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響への明確な認識を示す賢明なスタイル（文体）を選択する iii. アイデアを的確に発展させるために、関連する詳細情報と実例を豊富に選び出す

規準D：言語の使用

最高点：8

第3年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙および表現形式を限られた範囲で使用する ii. 文脈と意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる iv. 綴り、書き、発音する場合の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を十分な範囲で使用する ii. 時々、文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に用いる。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる iv. ある程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で上手に使用する ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、上手に書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に用いる。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない iv. かなりの程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する

達成レベル	レベルの説明
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで用いる。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である iv. 高度な正確さで綴り、書き、発音する。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する

「言語と文学」の評価規準：第5年次

規準 A：分析

最高点：8

第5年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
- ii. 作者の選択が受け手に与える効果を分析する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性について限られた分析を行う ii. 作者の選択が受け手に与える効果について限られた分析を行う iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることがほとんどない。 ほとんど／全く用語を用いない iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって最小限の範囲で関連づけることにより、評価する類似点と相違点はごくわずかである
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性について十分な分析を行う ii. 作者の選択が受け手に与える効果について十分な分析を行う iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えを正当化する。いくつかの用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を適切に関連づけることで、ある程度の類似点と相違点を評価する

達成レベル	レベルの説明
5-6	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、テキストのスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を上手に分析する ii. 作者の選択が受け手に与える効果を上手に分析する iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって、内容のある特徴の関連づけを行うことにより、類似点と相違点を評価する
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を鋭く分析する ii. 作者の選択が受け手に与える効果を鋭く分析する iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えを詳細に正当化する。正確な用語を用いる iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴の広範な関連づけをすることにより、鋭い比較・対比を行う

規準B：構成

最高点：8

第5年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
- ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- iii. 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 組織的構造の使用は最小限で、それが常に文脈と意図に応じているわけではない ii. 意見や考えを、最小限の一貫性と論理で整理する iii. 参照と形式化のツールを最小限利用し、それが必ずしも文脈と意図に適した体裁を作成しているわけではない
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を十分に使用する ii. 意見や考えを、ある程度の一貫性と論理で整理する iii. 参照と形式化のツールを十分に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に応じた組織的構造を上手に使用する ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で整理する iii. 参照と形式化のツールを上手に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 文脈と意図に効果的に応じた組織的構造を、高度な方法で使用する ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを持続的で一貫性のある、論理的な方法で効果的に整理する iii. 参照と形式化のツールを優れた方法で利用して、効果的な体裁を作成する

規準C：創作

最高点：8

第5年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの限られた個人的関わりを示すテキストを創作する。洞察、想像力、感受性は限定的で、新しいものの見方やアイデアの探究、批判的な振り返りは最小限にとどまる ii. 言語的、文学的、視覚的な表現に関するスタイル（文体）の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への認識は限られている iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をごく少数選び出す
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの十分な個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへのある程度の探究や批判的な振り返りを示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を十分に認識したある程度のスタイル（文体）を選択する iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をある程度選び出す
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへのかなりの個人的関わりを示すテキストを創作する。かなりの量の洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの内容のある探究や批判的な振り返りを示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を十分に認識した、考え抜いたスタイル（文体）を選択する iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を十分に選び出す
7-8	<ol style="list-style-type: none"> i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの鋭い探究や批判的な振り返りを示す ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響の十分な認識を示す賢明なスタイル（文体）を選択する iii. アイデアを的確に発展させるために、関連する詳細情報と実例を豊富に選び出す

規準D：言語の使用

最高点：8

第5年次の修了時点で、生徒は以下のことを習得している必要があります。

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

達成レベル	レベルの説明
0	レベル1-2に到達していない
1-2	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙および表現形式を限られた範囲で使用する ii. 文脈と意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限られている。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる iv. 綴り、書き、発音する場合の正確さが限られている。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である
3-4	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を十分な範囲で使用する ii. 時々、文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に用いる。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる iv. ある程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する
5-6	<ol style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で上手に使用する ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、上手に書き、話す iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に用いる。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない iv. かなりの程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する

達成レベル	レベルの説明
7-8	<ul style="list-style-type: none"> i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで用いる。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である iv. 高度な正確さで綴り、書き、発音する。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する

eアセスメント

MY Pの「言語と文学」について**IBのMYPでの成績**を希望している生徒は、教科目標の達成度を示すためにオンスクリーンの試験を受けます。この成績が良いものであれば、**IBのMYP修了証**を獲得するうえで有利となります。

この学習の検証には、IB資料（英語版）『*Guide to MYP eAssessment*（MY P eアセスメントの手引き）』に規定されている、正確で一貫性のある基準が適用されます。

注：2017年の9月にMY Pの主要な資料が改定され、eアセスメントの内容が盛り込まれました。該当資料の英語版、フランス語版、またはスペイン語版を参照してください。

付録

「言語と文学」における「関連概念」

関連概念	定義
受け手側の受容	テキストやパフォーマンスが対象とする相手（読者、聞き手、視聴者）、また、生み出される特色や影響、望ましい反応を指す包括的な概念。この影響には、ユーモア、感受性、批判的な立場、認識、共感、反感、共鳴、美的感性、ムード、雰囲気、およびジェンダーの観点などがある。
登場人物	物語や演劇作品に登場する人物。これには、記述や説明で特性を分らせる直接的な方法と、登場人物の行動、話または外観から、読者に特性を推論させる間接的（または「劇的」）な方法がある。 登場人物の概念を探究する際、生徒は、変化、影響、対立、主役、敵役、人格、引き立て役、ストックキャラクター（訳注：ステレオタイプな登場人物）について探究することができる。
文脈	テキストや作品が制作された、社会的、歴史的、文化的な設定、または制作場所の設定。 すべてのテキストは、その形式、内容、目的、受け手に従って、また、それらを制作し、評価する社会的、歴史的、文化的な文脈、または制作場所の文脈を通して理解することができる。文学のテキストは、社会的文脈、文化的伝統、歴史的変化に影響を受ける。生徒は、テキストが、引き継がれた文学的、文化的な伝統をいかに踏まえ、またいかにそれらを変えるかを考察するよう促されるべきである。 文化的文脈とは、特定の時代における特定の人々のグループの生き方、特に社会一般の慣習や信念を指す。

関連概念	定義
ジャンル	<p>共有された一定の特徴や表現技法を特色とする、文学や映画のタイプまたはカテゴリ。</p> <p>表現技法は、文学のジャンルに特徴的なものです。これらの特徴は、当然のことながら、言語の間で異なる。各ジャンルには、文学的表現技法と呼ばれる認識可能な技法があり、作家は、特定の芸術上の目的を達成するために、他の文学的特徴と共にこれらの表現技法を用いる。ジャンルの学習では、ジャンルの表現技法、つまり、形式、スタイル（文体）、ストーリー展開、性格描写、基調、ムード、雰囲気、言語使用域（レジスター）、視覚イメージやレイアウト、ナラティブ／ストーリーテリング、散文（伏線、回想、小説と短編小説における意識の流れ）、詩（韻律、押韻）、戯曲、神話、その他のフィクション（例えば、劇画、風刺、伝説、映画脚本、映画、テレビドラマなど）およびノンフィクション（例えば、自叙伝、伝記、紀行文学、エッセイ、書簡、文学的ノンフィクション、スピーチなど）について理解することが不可欠となる。</p> <p>戯曲における表現技法の例としては、ダイアログ、スピーチ、モノログ、独白、傍白、ト書き、声、動き、ジェスチャー、空間の使い方、コスチューム、小道具、照明、セット、音響などがある。</p>
テキスト間の関連性	<p>あるテキストと別のテキストとの関連性のことで、テキストが相互に関係する様子、およびそれらの相互関係から生じる意味。</p> <p>また、別のテキストを明白に参照すること（別のテキストから直接引用した場合など）も、テキスト間の関連性の例である。</p>
視点	<p>あるテキスト内の構成者、反応者、または登場人物によって、テキスト、またはテキスト内の事柄に対してもたらされる特定の観点。また、ストーリーの出来事が観察され、私たちに提示されるように見える、位置または有利な立場でもある。この概念を探究する場合、生徒は、例えば、位置づけ、「声」、およびトーンについて考察することになる。</p>
目的	<p>文学用語では、テキストを創作する作者の意図のこと。この概念によって、意味、論文／議論、ジェンダー、時代、偏見、説得力のある技法、機能、批判的な立場、メッセージ、文化に関する生徒の探求を促すことができる。</p>
自己表現	<p>特に書くこと、芸術、音楽、ダンス、デザイン、映画における、人の感情、考えやアイデアの表現。</p> <p>この包括的な概念には、アイデンティティ、「声」（個人的な）、インスピレーション、想像力、感受性、批判的な立場、およびプロセスについての本質的な理解の探究が含まれる。</p>
設定	<p>本、映画、演劇などの筋の展開が起こる時間と場所のこと。設定にはムードや雰囲気が含まれる場合もある。</p>

関連概念	定義
構成	詩、戯曲、またはその他の作品をまとめる方法で、あるテキストのさまざまな部分同士の関係、および複合的な全体としてのテキストとの関係のこと。これには、韻律のパターン、スタンザ（連）の調整、そしてアイデアを発展させる方法の探究が含まれます。構成には、プロット、ナラティブ、談話、形式、変化、論文／議論、統語法、伏線、および回想についての本質的な理解が必要とされる。
スタイル（文体）	作者が、特定の目的と効果のために、言語的表現、修辭的技巧、文学的特徴を用いる独特な方法。例えば、語の選択、構文、比喩的表現、反復、モチーフ、言及、イメージ、象徴的表現など。
テーマ	作者がテキストを通して探究する主要なアイデアや考え。

参考文献

Baldick, C. 2008. *The Concise Oxford Dictionary of Literary Terms*. (Third Edition). Oxford, UK. Oxford University Press.

Cambridge University Press. Cambridge Dictionaries Online. 2013. www.dictionary.cambridge.org/.

Collins. *Collins Dictionaries*. 2013. www.collinsdictionary.com/.

Brooklyn College, Department of English, Lilia Melani. *Literary Terms*. 7 August 2012. http://academic.brooklyn.cuny.edu/english/melani/lit_term.html.

Oxford University Press. *Oxford Dictionaries*. 2013. www.oxforddictionaries.com/.

Tyson, H and Beverley, M. 2012. *IB Diploma Course Companion: English A Literature*. Oxford, UK. Oxford University Press.

University of Cambridge, Faculty of English. *The Virtual Classroom Glossary of Literary Terms*. 2011. <http://www.english.cam.ac.uk/classroom/terms.htm>.

Wheeler, LK, DR. *Literary Terms and Definitions*. 8 April 2013. http://web.cn.edu/kwheeler/lit_terms.html.

「言語と文学」用語解説

用語	定義
表現技法	<p>言語学的表現技法：綴り、文法、句読法、構文、パラグラフ、および形式。</p> <p>文学的表現技法：大半の創作が従う一連の規則。構造や形式を含む場合がある。</p> <p>視覚的表現技法：視覚テキストの構造、特徴、レイアウト、および設計要素。色、テクスチャー、線、形、形式、象徴、音響効果や音楽、ボディー・ランゲージ、特殊効果、衣装、カメラアングル、および動きの使用を含むことがある。</p>
作者	口頭による作品、書かれた作品、または視覚作品を創作した人物。
批判的リテラシー	テキストの意味と目的を問題として取り上げ、異議を申し立て、評価する能力のこと。書かれたテキスト、話されたテキスト、視覚テキスト、マルチメディアテキストを、様々な観点から創作し、それに反応し、分析し、評価するスキル。これは、主題、視点、および言語が、文化やジェンダーや民族性といった問題に関する前提をいかに具体化するかなど、言語を通して価値観や姿勢を伝える方法の理解に関わる。
批判的な立場	読み手または視聴者がとる観点または視点。これには、テキストに示された立場を問題として取り上げ、そのテキストに対して自分自身の考えを発展させる読み手または視聴者が必要となる。
表現形式	例えば、詩、散文、音楽、美術、ソーシャルメディアなどを通して、自己を表現する方法および様式。
形式化	書体、文字や単語の様式の意図的な選択と使用、およびスペースの使用のこと（例えば、テキストを特定の方法で、また特定の目的のために整理または提示するため）。
ジャンル	<p>ジャンルは、様式、カテゴリーまたはタイプを指し、さらにフィクションとノンフィクションに分類できる。</p> <p>ノンフィクションのタイプには以下のようなものがある。</p> <p>自叙伝：ある人物が書いたか語った、その人の人生の記述または歴史。多くの場合、物語の形式で書かれる。</p> <p>伝記：別の人の人生について書かれた記述。</p> <p>エッセイ：作者の見解や視点を表す短い文学的作品。特定のテーマや主題についての短い文学的文章で、通常は散文形式で書かれ、一般に分析的、思索的、または説明的。</p>

用語	定義
ジャンル（前のページの続き）	<p>情報のテキスト：ほとんどの場合、実社会の現実の主題を扱う。文学のこのジャンルは、事実や現実に関する意見や推測を提供する。伝記、歴史、エッセイ、スピーチ、およびノンフィクションの物語が含まれる。</p> <p>ナラティブノンフィクション：事実に基づいた情報を、物語形式で提示したもの。</p> <p>スピーチ：ある人の考えや感情を口頭で表現したもの。一般に、演説または談話の形で発表される。</p> <p>フィクションのタイプには以下のようなものがある。</p> <p>劇作：創作のための主題を演劇で表現する、文学のジャンル。このジャンルは、通常は劇場での公演に向けて韻文または散文で創作され、対立や感情が、対話と動作を通して表現される。</p> <p>寓話：役に立つ真実を示す、通常はナレーション形式の、超自然的な、またはたぐいまれな人々についてのストーリー。寓話は、しばしば動物が擬人化された、伝説的で超自然的な物語。</p> <p>おとぎ話または不思議話：民間伝承または寓話の一種。時に、妖精や他の魔術的な存在についての話であり、通常は子供向け。</p> <p>ファンタジー：変わった、あるいはこの世のものでない設定または登場人物を伴う、心的イメージの産物。現実を一時的に忘れさせるフィクション。</p> <p>民間伝承：口伝で伝承された、人または「人々 (folk)」の歌やストーリー、神話、ことわざのこと。民間伝承は、広く受け入れられている文学の1つのジャンルだが、誤った、根拠のない信念に基づいている。</p> <p>歴史小説：架空の登場人物と歴史的な設定の出来事を伴う物語。</p> <p>ホラー：出来事が、登場人物と読者の両方の恐怖感を喚起するフィクションの1つの形式。</p> <p>伝説：事実に基づくものの、想像的な要素も含まれるストーリー。しばしば国または人々の英雄が題材となっている。</p> <p>ミステリー：犯罪の解決や秘密の解明を扱う、フィクションの1つのジャンル。秘密にされている、または説明のない、あるいは未知の物事について扱う。</p> <p>神話：伝統的な物語の一種。多くの場合、部分的に歴史的な出来事に基づいており、象徴的意味によって人間の振る舞いや自然現象が明らかになる。たいていは神々の行動に関係している。</p> <p>詩：読者の情緒的反応を喚起するイメージを伴う、韻文や律動による創作。詩の芸術は、構造上律動的で、書くまたは話す形式をとる。</p> <p>写実主義小説：実際に起こり得る、実生活に忠実なストーリー。</p>

用語	定義
ジャンル（前のページの続き）	<p>サイエンスフィクション（SF）：実際の、または想像による、潜在的な科学の影響を題材にしたストーリー。未来、または他の惑星に話を設定した文学ジャンルの1つ。</p> <p>短編小説：わき筋をつけることができないほど短いフィクション。</p> <p>ほら話：あからさまな誇張と、不可能なことを無頓着な様子で行う、自慢好きの英雄が特徴のユーモア小説。</p> <p>[http://genresofliterature.com/]</p>
文法	<p>単語およびその構成要素の部分がどのように結びついて文を組み立てるかを定めた一連の規則。</p> <p>MYPの「言語と文学」では、各言語によるが、文法には語順、構文、品詞、形態論、音声学が含まれる。</p>
段階的指標	<p>1-2 = 限定的な試み、最小限、めったにない</p> <p>3-4 = 満足できる、いくらか、時折</p> <p>5-6 = 内容がある、たいてい、通常、かなり</p> <p>7-8 = 優れている、明確である、効果的、洗練されている、高度な、完全な、鋭い</p>
内的モノローグ	登場人物の心に去来する思考や感情や連想を示す、一種の独白。
指導言語	学校のカリキュラムの大部分に使用される言語。学校は1言語以上を指導言語とすることができる。
文学	<p>文学の定義は文化や言語によって異なる。ほとんどの文化では、文学には、詩、散文（短編小説および小説）、神話、戯曲が含まれる。さらに、文化によっては、自叙伝、伝記、劇画（グラフィックノベル）、紀行文学、風刺、エッセイ、書簡、文芸ノンフィクション、スピーチ、伝説、映画脚本、映画、ドラマシリーズのようなテレビ番組も文学に含まれる。MYPの「言語と文学」は上記のすべてを扱うことができるため、学校は、言語コースの文脈の中で何を文学の構成要素とすることを決定する必要がある。</p>
意味	時に「メッセージ」とも呼ばれる。何層かの意味 (layers of meaning)、ニュアンス、明示的意味 (denotation)、言外の意味 (denotation)、推論、およびサブテキストを含む。
マルチリテラシー	<p>マルチモーダルな方法でテキストに取り組み、意味を構築すること。マルチリテラシーは、コミュニティーの実生活のテキストと学校のテキストの間の橋渡しとなり、教科に基づく知識を用いた、実社会における学際的な学習へのアプローチを促す。マルチリテラシー・アプローチを使用することで、生徒は、現世代のマルチモーダルテキストを理解し、使用し、批判的に評価することができるようになる。これらの複合的なテキストには、言語的、視覚的、空間的、音声的、そしてジェスチャー的なデザインが組み込まれている。</p>

用語	定義
マルチメディア	2つ以上の媒体を使用するテキスト（例えば、言葉やイメージなどの視覚メディアと音を組み合わせるなど）。テレビ、インターネット、そしてコンピューターやデジタル技術の発達により、ますます豊かで複雑になるマルチメディアテキストはますます豊かで複雑になっている。現在のマルチメディアテキストは一般に、動画、高度で複雑なグラフィックス、および双方向性を特徴としている。マルチメディアテキストの例としては、CD-ROMやDVDで提供されるテキスト、ミュージックビデオ、漫画、テレビゲーム、インターネットテキストなどがある。
マルチモーダル	2つ以上のモードから成ること。マルチモーダルテキストは、意味を伝えるのに2つ以上のモードを使用する。マルチモーダルテキストの例としては、映画やコンピュータゲームなどがある。
口頭のコミュニケーションスキル	学習している各言語によって、発音、イントネーション、トーン、ピッチ、抑揚、ペース、間（ま）のとり方、音声コントロール、音量、プロジェクション（訳注：声を遠くまではっきりと伝えること）、ボディ・ランゲージ、ジェスチャー、およびアイコンタクトなどが含まれる。
口頭での応答	単一の主題に関する文学的創作物（通常はエッセイ）で、文書の形式ではなく、口頭で伝える意図をもってつくられるもの。
組織的構造	組織的構造またはテキストの構造には、特定の文、パラグラフ、およびテキストのより大きな部分（例えば、セクション、章、場、またはスタンザなど）が互いに、そして全体といかに関連するかについての知識を理解し、適用することが関わっている。一般的なタイプの組織的構造またはパターンには、年代順、比較・対比、重要性の順序、連続性、空間的構造、因果関係、記述、問題と解決法などがある。
パロディー	からかいやユーモアを意図して、別の作品や作者を模倣したテキスト。
パスティーシュ	別の作者のスタイル（文体）を模倣した作品、または複数の作者のスタイル（文体）を模倣した作品。
位置づけ／影響	位置づけ：テキストが読み手／視聴者にどのような影響を与えるか。 影響：1つのテキストが別のテキストにどのような影響を及ぼすか。 テキストは作りなおすことで、元々の意味を活かして新たなテキストを生み出すことができる。
体裁	特定のテキストのタイプで用いられる、テキストの形式と表現技法。テキストの視覚的な検討を含み、構造的な要素をこえて、美的要素や機能的要素についても考慮する。
発音	個々の音をはっきりと発音すること。アクセントのことではない。
目的	「真意」、「意図」または「作者の選択」と呼ばれることもある。

用語	定義
言語使用域（レジスター）	特定の文脈と受け手にとって適切な、妥当な程度のフォーマルさを生み出す、トーン、ペース、音量、ピッチ、抑揚、流暢さ／なめらかさ、語彙、文法、および構文の使用。いくつかの言語には、「フォーマル」と「インフォーマル」より多くの、言語使用域（レジスター）のレベルがある。
文学への反応	真の理解と分析を示す、意義のある、個人的なテキストとの相互作用。
スタイル（文体）	テキストのすべての側面に関する作者の選択で、多様な文学および非文学の特徴を用いて、さまざまな目的と受け手に向けて一定の効果を引き起こす。
スタイル（文体）の選択	作者は、説明する内容、そして、それをいかに説明して効果を生み出すかについて選択を行う。 この包括的な用語には、次のような文学および非文学の特徴が含まれる: 言語的手段（修辞、統語法、反復）、修辞的技巧（象徴、比喩、直喩）、視覚的手段（色、テクスチャー、象徴化、前景化）。
支援ツール	目標B（構成）における支援ツールの例としては、引用、例証、参考文献、表、グラフ、脚注、参照、イタリック体、アンダーライン、目次、付録、ラベル、見出し、アウトライン、上付き文字、下付き文字などがある（これらは以前「注解（critical apparatus）」と呼ばれていた）。
用語	テキストの分析に用いる言語。例えば、プロット、テーマ、調子、性格描写、設定、象徴的意味、映画脚本、奥付欄、署名欄、詳細な描写といったものがある。
テキスト	MYPの「言語と文学」において、テキストには、書かれたテキスト、口頭によるテキスト、視覚テキスト、または非文学もしくは文学のテキストが含まれる。完成された文学作品を意味する、「作品」とは区別できる。
テキストのタイプ	書かれたテキスト、口頭によるテキスト、視覚テキストのさまざまな形式。例えば、描写的、物語風、説明的、論争的、逸話的テキストなどがある。
接続語	考えを関連づけ、整理するのに用いられる構造、体系、または単語。テキストの読み手を導く効果がある。適切な構造または表現技法とみなされるものは、言語によって異なる。
見ることと発表すること	さまざまな状況において、また広範な目的と受け手のために、イメージやマルチメディアを解釈または構成すること。生徒は、イメージと言語が、いかに相互作用してアイデア、価値観、信念を伝えているかを理解する必要がある。

用語	定義
視覚テキスト	1つの図像や連続した静止画像、または動画を含むテキスト。標識、シンボル、ポスター、小冊子、CDジャケットやブックカバー、写真や絵入りの新聞記事、ウェブサイト、映画、テレビ番組、PowerPoint®のプレゼンテーションなど。
世界文学	MYPでは、世界のさまざまな地方の文学や、文化をこえる作品、翻訳作品を指す。

「言語と文学」のための指示用語

指示用語	定義
分析しなさい	分解して、本質的な要素または構造を明らかにしなさい（部分や関係性を特定し、情報を解釈して結論を導き出すため）。
コメントしなさい	与えられた記述または計算結果に基づき、見解を述べなさい。
比較して、対比しなさい	2つ（またはそれ以上）の事物または状況の類似点および相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。「言語と文学」では、複数のテキスト間で類似性とのつながりの重要性を見いだして評価することがあるため、生徒は文学分析を行うことが求められます。
つくりなさい	自分自身の思考または想像力から、作品や発明品として発展させなさい。
批評しなさい	特に美術作品や文学作品を扱う場合に、批判的なレビューや論評（コメンタリー）を提示しなさい（「評価しなさい」の項も参照）。
論じなさい	広範な議論、要素、または仮説を含む、よく検討され、バランスのとれたレビューを提示しなさい。意見や結論は明確に提示し、適切な裏づけが必要です。
評価しなさい	長所および短所を比較し、価値を定めなさい（「批評しなさい」の項も参照）
考察しなさい	論点の前提および相互関係が明らかになるよう、主張または概念について熟考しなさい。
探究しなさい	何かを発見するための系統立ったプロセスに取り組みなさい。
特定しなさい	いくつかの可能性の中から答えを出しなさい。際立った事実または特徴を認識して、簡潔に述べなさい。
解釈しなさい	知識および理解を用いて、与えられた情報から傾向をつかんで結論を引き出しなさい。
正当化しなさい	解答または結論を裏づける、有効な理由または証拠を述べなさい。
整理しなさい	アイデアや情報を、適切に、または体系的に整理しなさい。テキストに構造を与えなさい。
簡単に述べなさい	簡潔な説明または概要を述べなさい。
選びなさい	リストまたはグループから選びなさい。

指示用語	定義
要約しなさい	一般的なテーマまたは主なポイントを短くまとめなさい。
統合しなさい	異なる考えを結びつけて、新しい理解を導き出しなさい。
活用しなさい	知識や規則を適用して、理論を実践に移しなさい。

MY Pで使用される指示用語の全リストは、IB資料（英語版）『*MYP: From principles into practice*（MY P：原則から実践へ）』（2014年刊行）に掲載されています。MY Pの「言語と文学」に固有の用語の定義と例は、この付録の用語解説に記載されています。

推薦図書

Halliday, MAK. 2004. *Three Aspects of Children's Language Development: Learning Language, Learning through Language, Learning about Language*. In JJ Webster, (ed), *The Language of Early Childhood*. New York, USA. Continuum.

Kramsch, C. 1993. *Context and Culture in Language Teaching*. Oxford, UK. Oxford University Press.

Lanning, LA. 2013. *Designing a Concept-based Curriculum for English Language Arts: Meeting the Common Core with Intellectual Integrity, K-12*. London, UK. Corwin.

Savignon, SJ. 1983. *Communicative Competence: Theory and Classroom Practice*. Reading, Massachusetts, USA. Addison Wesley.

Unsworth, L. 2001. *Teaching Multiliteracies Across the Curriculum*. Buckingham, UK. Open University Press.